

ひらやま  
十号

※ 今回は、新聞掲載作品です。



三年 黒田 雄心

「ゆりの木荘の子どもたち」を読んで

三年 石川 稲絵



人た よいに を言 よとてんると いいで  
た この時なわは葉わりめしがみ 、手うるすこ  
ち題の時間つたはた 、まま手る言まいサ。の  
に名本間をてしき 、しもすいま内わりつくこ本  
ものをにすみがなだはと 、まりにれ歌しラのを  
読夕読言ごたもくれ のあす歌子まをよさ本手  
んいんうすいしてがあおる 。をどす歌にんに  
でトで事事でもは使うばまこ歌も 、つすとはど  
もル ががすこ 、つまあほこうのそてんい 、つ  
らよざうで のまてほちうのとすこ 、でうゆた  
いりしれきな場ほもうやが全 がで  
た 、きしるぜ所うつのんあい時た 、  
いはわくとなにのう言にりんがにサ  
でるら感思らい言よ葉も 、は七かク  
すかじつ 、れ葉うがどそ 、十わラ  
にのるたさるはすとるの子七つさん  
おやかかクなきるて事まど年てんは、歌いは  
もさららラらき言もがほもにもどりたちまち子どもにもどつ  
ししででき 、め葉氣でうをもどつて  
ろさすすんサがでにきをを  
かや 、とクあす入まサク 、ラさんがと  
つ 、いいラり 、め葉氣でうをもどつて  
た 親切 、つきさんまだけど、そのまほうの  
です 事が分 、つ うし 、あるやくそく  
大 が分 になつた 、つ うし 、あるやくそく  
人 が分 になつた 、つ うし 、あるやくそく

にのるたまるはすどるの子七つさ  
おやかかクなきるて事まど年てん  
もさららラらき言もがほも前いは  
しででさ‘め葉氣でうにももき  
ろさすすんサクララ。あるやくそく  
かやつたまだけど。そのまほうの  
た親切な事が分かりまし  
大人になりまし

本當の仲よし  
四年  
福田  
凜

みんなの手と手がつながつて  
大きな大きな輪になつた

みんながみんな仲がよしすだばれて

み 小 犬  
い 鳥 や  
う だ わ  
せ つ こ  
い て

みんなが楽しくなるから

みんなが楽しくなる

本みみだだ  
当んんれれ  
のななかか  
仲いち一  
よいが人入  
しとつだだ  
にこてけけ  
がが悪い  
なれがる  
あつてこそ  
いいわけでもない



三年 小西 辰幸

